

Photographic Society of Zone System

ゾーンシステム研究会会報 Web 公開版

発行日：2019.2

発行者：中島秀雄

事務局：畑 文夫

編集部：荒井 崇

NO.67

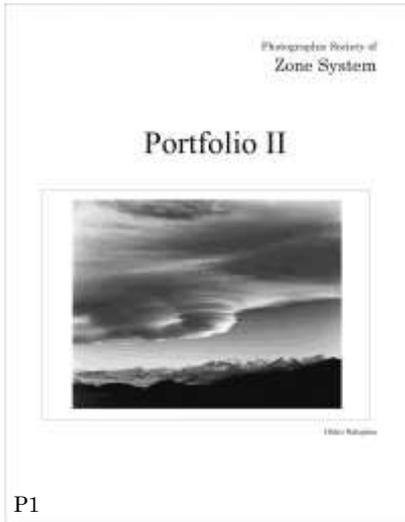
CONTENTS

- ・ ポートフォリオⅡ 紹介カタログ
- ・ ポートフォリオⅡ 写真展スナップ
- ・ ポートフォリオⅡ 写真展メディア掲載
- ・ 「ゾーンシステム研究会」
 - …ゾーンシステム研究会第22回写真展の中島代表挨拶文
- ・ ゾーンシステム研究会第22回写真展作品(1)
- ・ ゾーンシステム研究会第22回写真展メディア掲載
- ・ ゾーンシステム研究会第22回写真展作品データ
- ・ ゾーンシステム研究会第22回写真展スナップ
- ・ ゾーンシステム研究会第22回写真展ギャラリートーク
- ・ フィルムテストレポート
 - ILFORD HP5 PLUS 400 (4×5) —
- ・ インフォメーション



「ポートフォリオⅡ」紹介カタログ

ポートフォリオⅡを紹介するカタログを制作し、主要な美術館・ギャラリー・教育機関等への配布を行いました。



P1

ゾーンシステム研究会「Portfolio II」のご案内

皆様ご清祥のこととお慶び申し上げます。

私たちゾーンシステム研究会(代表 写真家・中島秀雄)は1995年の創設以来、一貫してファインアートとしての写真制作を目標として参りました。その成果は毎年の展覧会で公開しておりますが、その中から選りすぐったオリジナルプリント集を「ポートフォリオII」と題し、24部限定で制作いたしました。

二十世紀前半にはほぼ完成をみた「ゼラチンシルバープリント」とよばれる写真技術は、二十一世紀に入ってから急速に縮小していますが、その美しさや表現力、アーカイバル性は今なお変わることはありません。被写体と対峙しながら表現結果をイメージして撮影し、現像・プリントなどすべてのプロセスを作者自身が行うことにより完成する作品世界は、質感と密度に於いて不変の価値を持つものであり、私どものプリントにおいてもその例にもれないと自負しております。

貴館におかれましても、ぜひこの機会に収蔵をご検討いただきたく、ご案内を差し上げる次第です。

ゾーンシステム研究会 Portfolio II 体裁

中島秀雄を含むゾーンシステム研究会の作品16点
 11×14インチサイズ ゼラチンシルバープリント (アーカイバル処理パウダ紙)
 写真家・原 直久(元日本大学芸術学部 写真科教授) 序文入り
 限定24部 エディション番号入り アーカイバル函入り
 参考頒布価格 18万円
 残り8部

実物をご覧になりたい方は下記にお問い合わせください。

ギャラリー ストックス (担当 鈴木)
 〒107-0062 東京都港区南青山 6-2-10 Tビル4F TEL 03(3797)0856
<http://www.gallerystocks.com> (火曜日休館)

P2

2018年9月吉日
 ゾーンシステム研究会 代表 中島秀雄



P3



P4

ポートフォリオⅡ 写真展スナップ



2018年7月4日～9日、「ポートフォリオⅡ写真展」が開催されました。
場所は、なじみの深い南青山の「ギャラリー・ストークス」。ポートフォリオⅠも一部参考展示。
また、ポートフォリオⅡを1点販売することができたとともに、今後ギャラリー・ストークスにてポートフォリオ販売の代行をしていただけることも決定。大変充実した写真展になりました。

ポートフォリオⅡ 写真展メディア掲載

▼ゾーンシステム研究会 ポートフォリオⅡ写真展 7月4日～9日に南青山のギャラリーストークス (Tel.03-3797-856) で開催。同会は大型カメラによる写真の特長と、モノクローム写真の魅力も合わせて写真愛好家および広く一般に伝えることを目的としている。撮影からプリントまで、すべてを作者自身による手作業で行っている研究会は、銀塩写真を残す最良の手段としてポートフォリオ（作品集）の制作を行っており、ポートフォリオⅡは2011年のポートフォリオⅠにつづき、6年ぶりの制作となる。今回はそこに収めた作品を展示し、数セットを販売する。出展数はモノクローム銀塩プリント約16点。



ギャラリーストークス
ゾーンシステム研究会 ポートフォリオⅡ写真展

【フォトステージ 2018年7月号
裏表紙に掲載】

7/4-9
「ポートフォリオⅡ」
ゾーンシステム研究会

ギャラリー・ストークス
☎03-3797-0856

モノクロ写真の魅力、特徴を、その技法も含めて広く伝えることを目的に、大型カメラでの撮影から現像、プリントまでを作者自身の手作業で行っているゾーンシステム研究会。美しい銀塩写真を後世に残す手段としてポートフォリオを制作してきたが、2011年以来徐々に制作されたポートフォリオを展示、販売も行う。

【月刊カメラマン 2018年7月号掲載】

ゾーンシステム研究会 「ポートフォリオⅡ写真展」

この素晴らしい緊張感をもった体験をデジタル世代の多くの人たちにも、これが写真だという感動を是非とも味わって欲しい。

原直久



H. KITANO



H. MATSUMOTO



H. NAKAHIMA

2018年7月4日(水)～9日(月) ギャラリー ストークス

Gelatin Silver Fine Print
銀塩ファインプリント

ギャラリー ストークス
〒107-0062 東京都港区南青山6-2-10 TIビル4F
<http://www.gallerystorks.com> 03(3797)856

2018年7月4日(水)～9日(月)
12時～19時(最終日は16時迄)会期中無休

ゾーンシステム研究会
<http://www.zonesystem.tokyo> zonesystem.adm@gmail.com

中島秀雄 荒井崇 白井健司 越後久雄 岡崎克之 金子正道
川北弘 北野徹一 藤田功 小宮秀一 古谷津純一
長谷川勇夫 畑文夫 浜野次郎 松本ひさ子 椿川賢



【金丸真 HP 2018年6月11日掲載】

「ゾーンシステム研究会」

…ゾーンシステム研究会第 22 回写真展の

中島代表挨拶文

研究会の写真展は今年で 22 回目となります。自然風景や、生活の周囲で起きている変化を見抜き、撮影からプリント制作まで会員各自の技量で取り組んできました。

私たちの題材は、現実に存在し、見えたもの、手に触れることのできるもので、スナップショットのようにその時々を写真にすることではありません。

日常の風景も整った構図にして眺めてみたい、物と物のバラバラな配置を整えてみたい、強い光の中で眺めたい、移り変わる自然の変化を眺めたい、といった強い思いから被写体にカメラを向けてきました。

私たちは、被写体を見つけたからといってすぐにカメラを取り出して撮影することはありません。被写体の中に、これから自分が撮る写真を見るように時間をかけて眺めることからスタートします。アメリカの写真家アンセル・アダムスは、“ビジュアライズ”とっています。ビジュアライズとは事前の予見、ありありと心に描くという意味で、想像力と言い換えてもいいかもしれません。

写真は、私たちの視覚経験をカメラで記録することから始まります。その担い手であるフィルムの存在は重要で、今日まで多くのフィルムを使い続けてきました。

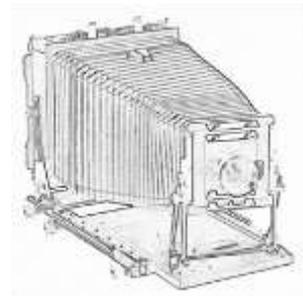
フィルムの選択は作品のテーマに大きく影響するため、事前にその特性を把握し、感度や現像時間を見つけておくことが欠かせません。好奇心と緊張感の入り混じる現像は、写真家だけに与えられた素晴らしい経験といえます。

しかし、今年、長い間使い続けてきた国産フィ

ルムの一部がメーカーの都合によって製造中止となりました。アジアで唯一の使いやすく信頼性の高いフィルムがなくなることは、日本の写真文化にとっても大変残念なことです。

写真アートの大切なものが経済原理によって失われないことを願うばかりです。

ゾーンシステム研究会代表・写真家
中島秀雄



ゾーンシステム研究会第22回写真展「光への探求」作品(1)

アイデムフォトギャラリー「シリウス」【2018年11月8日(木)~11月14日(水)】



1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.



8.



9.



10.



11.



12.

1. 「冬の痕跡」 中島秀雄
2. 「第一発電所 62,800 kW」 中島秀雄
3. 「夕景の森」 中島秀雄
4. 「White tree (白い樹)」 鈴木知之
5. 「橋脚」 荒井崇
6. 「Fallen Tree」 荒井崇

7. 「Black tree (黒い樹)」 鈴木知之
8. 「静かな納屋」 三浦一馬
9. 「アザミ」 金子正道
10. 「Lake Carezza」 北野龍一
11. 「Santa Magdalena」 北野龍一
12. 「薄明」 金子正道



13.



14.



15.



16.



17.



18.



19.



20.



21.



22.



23.



24.

13. 「San Pietrini」 臼井健司
14. 「干潮時の橋杭岩」 藤森利昭
15. 「パリ オペラ座」 越後久雄
16. 「初雪」 橘田功
17. 「もののけの郷」 橘田功
18. 「海辺のプラント」 藤田昇

19. 「a dense grove」 古谷津純一
20. 「doorway」 古谷津純一
21. 「残された壁画」 藤田昇
22. 「足尾砂防堰堤」 小菅秀一
23. 「形象」 小菅秀一
24. 「冬蓮図」 金野邦明

ゾーンシステム研究会第22回写真展メディア掲載

東京都
新宿

第22回 ゾーンシステム研究会写真展



ゾーンシステム研究会は、20余年前から大型カメラによるモノクローム銀塩写真に取り組み、その美しさを追求している。本展では、国内外の自然風景、都市風景、生物、そして生活環境の中に美を求めた作品、約40点を展示する。

期間 11月8日(木)～14日(水)
10時～18時(最終日15時まで、日曜休館)
場所 アイテムフォトギャラリー「シリウス」
☎ 03-3350-1211

[風景写真 2018年 11,12月号掲載]

写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS

第22回「ゾーンシステム研究会」写真展

アイテムフォトギャラリー「シリウス」

11月8日～14日に開催。タイトルは「光への探求」。研究会は20余年前から大型カメラによるモノクローム銀塩写真に取組み、その美しさを追求してきた。今回は約40点を展示する。大型カメラの特長は、圧倒的な描写力とその創造的なプロセスにあり、研究会は撮影、フィルム現像、プリントまでの技法としてゾーンシステムを活用してきた。「私達は、国内外の自然風景、都市風景、静物、そして生活環境の中に美しさを求めています。今回、冬の景色にもカメラをむけてみました。全ての展示作品は、作者自ら制作したオリジナルプリントで、大四ツ切から全紙サイズまでのモノクローム銀塩プリントです」とコメント。掲載写真は小谷津純一氏撮影。



OPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS

[フォトステージ 2018年 11月号掲載]

ゾーンシステム研究会第 22 回写真展スナップ



ゾーンシステム研究会第 22 回写真展 ギャラリートーク (2018.11.10)

記録：浜野次郎

① 中島代表

・展覧会も今年で 22 回目を迎えましたが、現在ゾーンシステム研究会は 32 名の会員が白黒作品の制作に取り組んでいます。白黒にも様々な技法があり、それがひとつひとつの作品にあらわれるところが大変興味深いと思います。

[作品タイトル：夕景の森]

・私の作品は妙高高原で撮りました。こうした真っ直ぐに伸びた杉の林は誰でも撮ってみたいと思う被写体ではないでしょうか。ここは昔から知っている場所でしたが、なかなか好ましい光の状態に出会うことはありませんでした。たまたまこの時は夕方にさしかかり、自分のイメージに近づいたのでカメラを向けました。

・こうした被写体を美しい写真にするには 3 つくらいの条件があるように思います。一つめは(杉以外の)雑木がないこと、二つめはある程度の撮影距離がとれること、三つめは柔らかい光があり背景が空に向かって開けていないこと、です。今日はこの作品のネガを持ってきましたが、4×5 のネガです。フィルムは T-MAX、レンズは 210 ミリです。この 210 ミリは私の目の視覚に近いイメージが得られるので、好んで使っています。

・フィルム現像しネガをつくる、ということは時間がかかる作業ですが、写真家の楽しみであり、また責任でもあると考えています。きちんとしたネガが出来た時には感動があり、すぐにプリントのイメージが湧いてきます。そうしたネガをつくるためには(ギャラリーの壁面に掲げてある)ゾーンシステムの方法が最も良いと私たちは考えています。

・プリントする時はかならず、その時の露光時間

やフィルターの号数、焼き込みの方法などのデータを残すようにしています。このデータを用いても必ずしも全く同じプリントが得られるわけはありませんが、次回同じプリントを焼こうとした時の最初のガイドとしては有効です。

・もちろん撮影の時のデータも残すようにしています。同じような場面に出会った時にどのような絞りやシャッタースピードとするか、自分の頭の中に蓄積するためには「書く」ということが大事だと思います。

・そして最終的にプリントしたものが「これで良し」という段階に達した時にサインをし、エディションナンバーを振るようになっています。私がプリントした場合でも、5 枚程度焼いて本当に良いプリントは 2 枚くらいしか得られません。

■**会場からの質疑**：この作品をみると真ん中がすこしあいており、画面には様々な太さの木がありますが、どのように構図を決めたのでしょうか？

■**回答**：撮影の現場では自然の風景を変えることはできません。この時も杉の木立がすこし混み合っていたような印象がありましたが、フレームの中にきちんと納めることを意図し、ピントグラスを眺めながら前後左右に微妙にカメラの位置を変え、最適な位置を探りました。無造作に沢山撮って、後から良さそうなものを選択するのではなく、こちらに動けばこうなる、もうすこしこうして見ようと、想像力をはたらかせて一枚を撮るのが写真家のたのしみであり、フィルムをつかった写真の素晴らしいところなのです。

② 鈴木知之さん

[作品タイトル：Black tree(黒い樹)]

・私はこの場をお借りして大型カメラで写真を撮る、ということがどういうことかをデモンストレーションして見たいと思います。

・まず、カメラの扱いかたですが、大型のカメラは組み立てた状態で、冠布を被せて持ち運びます。(実際にカメラを抱え)こういうスタイルで「良い風景はないかなあ」と探します。

・撮りたいものがみつかるはず構図を決めますが、そのためにはこうした道具(ビューイング・フィルター)を使います。この茶色のフィルター(コダック No. 90)を通して風景をみると、被写体の色が消え擬似的にモノクロームに見えます。縦位置か横位置か、どこまでを切り取るかなど作品のイメージをつくり、構図が決まってから三脚をセットします。

・焦点はピントグラスをルーペで覗いて合わせます。
・露出は測光角度1度のスポットメーターで被写体の部分をピンポイントで測り、決定します。ゾーンシステムのキモはディープ・シャドーのディテールを大事にすることで、この作例では草原をゾーンⅧに、森の陰をゾーンⅡに合わせて、ぎりぎりのディテールを出しています。

・露出が決まってからフィルムを装填します。大型カメラはスローシャッターを切ることが多く、屋外での撮影の場合は風の影響が大きいので、風が瞬間的に止むのを待ってシャッターを切りません。以上のように大型カメラでの撮影は行います。

③ 金子正道さん

[作品タイトル：薄明]

・この作品を撮ったのは、今新国立美術館で開催されている東山魁夷の画集を昔見て、この池を白黒写真で表現できないだろうかとずっと考えて4回通い、4回目に撮影した写真です。夜が間もなく明ける山奥の一瞬の静けさ、のようなものが見えて来れば幸いです。

[作品タイトル：アザミ]

・畑に生えたアザミを見つけ、この写真に状態に

なるまで待ち、摘んで室内に持ち帰り、夏の花にふさわしいようにほぼ真上から柔らかい光を当て、シャドーを補うために発泡スチロールで下からレフを当て55秒の露出で撮影。エアコンを止め息をひそめてシャッターを切りました。

④ 北野龍一さん

[作品タイトル：Lake Carezza]

・この作品は7月にグループ旅行をした際に撮ったもの。オーストリア、スイスの国境地帯であるドロミテのカレッツアという所の風景です。美しい風景をスナップ的に撮影しました。カメラはマミヤセブン(6×7ブローニーサイズ)です。山の風景を撮るのは慣れていないせいか、自分ではやや絵葉書的な写真になってしまったようにも思いますが、楽しんでいただければ幸いです。今回はもう一枚、同じ旅行の時に撮った教会の建物の写真を出展しました。

⑤ 橋田功さん

・ゾーンシステムというと、ゾーンⅠからⅧまで被写体を綺麗に再現することばかり気にしているように思われていますが、私はいつも「写真はいったい何を表現するのだろう」と考えながら撮っています。

[作品タイトル：もののけの郷]

・この作品は2008年10月能登半島に海を撮りに行き、たまたま海が荒れて風が強くなり写真が撮れなかった為に山筋に入り、雨が降ったあと頭を下げた竹林をみつけて撮ったもの。この場所に妖怪達がいるような感じを表現したかったのです。

[作品タイトル：初雪]

・もう一枚はハッセルブラッド(6×6)で撮った裏磐梯の写真。猫魔ヶ岳などの外輪山をもつ雄国沼で撮りました。天気が悪い日でしたが、秋の感

じが残っている中にうっすら雪が積もっている風景を撮りました。

・私は晴れた日よりもむしろ雨や曇りの時に好んで写真を撮ります。コントラストが弱く、最終的にプリントしやすい滑らかな階調のネガが出来るからです。中島先生にはいつもプリントがウオームトーンだと言われますが、これが自分の好みなのでどうにもしようがありません。

⑥ 小菅秀一さん

[作品タイトル：形象]

・私の作品は植物です。アガベという竜舌蘭の一種。植物園の中で許可をいただき三脚を立てて撮りました。本日はネガも持ってきましたが、すこし普通よりも濃いかもしれません。

・私はアガベの生命力に感動し、また葉の形、ハートの形が集合したようなフォルムが素晴らしいと思い撮影しました。

・露出は葉の中心部をゾーンVとし、絞りはf64、2秒のシャッタースピードでした。撮影の距離は約1m、立体的な被写体なので、カメラのアオリの機能(逆チルト)を使い全体にピントを合わせました。同時に真ん中の新芽の部分にもピントがくるように気をつけました。天候は曇天でした。もしこの日が晴天であったら、作品にならなかったかもしれません。この被写体は3年前から数十枚撮ってきましたが、やっとこれで打ち止めになったと思います。

⑦ 三浦一馬さん

[作品タイトル：静かな納屋]

・私は会員のなかで最年少です。廃墟を撮るために写真を撮り始めたのですが、ゾーンシステムの一つずつ積み上げてゆく方法が自分には合っていると思い、研究会に入会しました。

・この作品はカナダにある廃屋です。人がつくったものと自然との対立がわかりやすく見える場所、それが廃墟です。ふたつがせめぎあっている様に惹かれるようです。それは自分が東京に育ったせいかもしれません。

・プリントでは植物の暗部を潰さないように、覆い焼きで細かくトーンを起こしました。撮影条件は準逆光の難しい光でしたが、手前の地面のトーンをうっすら白くするなど全体のバランスをとりました。

・人と自然のバランスが「風いだ」状態、この家のすぐ近くには人が住んでいるけれども、生活を押し込めていた場所がだんだんと忘れられ、自然が押し寄せてくる、そうした切り替わりのポイントを写し止めたいと思いシャッターを切りました。

■ギャラリートークという新しい試み

・今回の展覧会では土曜日の午後、中島代表と会員6名による自作品解説がおこなわれました。作品の意図を言葉にして人に伝えるというのはとても難しく、優れた作品に解説は不要、という考えもありますが、このイベントは「自分がめざす写真はいったい何なのか」を改めて考える良いきっかけになったのではないのでしょうか。さらに、この自由なトークのなかには作品づくりの貴重なヒントも豊富に含まれていると考え、会報に採録させていただきました。

・お話を伺っていると年齢も研究会に参加している動機も異なり、光の状態、レンズの選択など作者ごとに好みはバラバラなのですが、一堂に会してみると驚くほど統一感があるのがゾーンシステムの展覧会です。それこそが長い年月をかけて磨かれてきたこの技法の懐の深さを示している、と思われました。

フィルムテストレポート

— ILFORD HP5 PLUS 400 (4×5) —

小菅秀一

イルフォードから発売されている ILFORD HP5 PLUS400(4x5)は、公称感度 ISO400 となっている。フィルムの能力、特長を十分引き出すためのテストを試みた。

実効感度測定と標準現像時間を求める。

1. 実効感度測定 (正しいゾーン I の値を求める)

(a) 均一に照明された 18% グレーカードをスポットメーターで測定し、値をゾーン I に合わせ、様々な感度で 7 枚撮影した。

(b) ネガ濃度測定

濃度計を使って 7 枚のネガすべてを測定する。カブリ濃度 + ベース濃度 + 0.1 = 0.2 (今回のフィルムの値) がゾーン I の値となり 7 枚のネガを測定すると ISO 200 で撮影したネガが濃度 0.2 となり実効感度とした。

撮影データと濃度は、図 1 になる。

: 現像処理

- D-76 1:1 20°C 11 分 JOB02553 タンクを利用し毎分 30 回反転

- 停止 30 秒、定着 5 分、水洗 15 分

* 前浴は 3 分

* 薬液の希釈、処理は地下水を使用

感度	絞り	シャッター	濃度
400	45	1/30	0.14
320	32 2/3	1/30	0.16
250	32 1/3	1/30	0.17
200	32	1/30	0.2
160	22 2/3	1/30	0.23
125	22 1/3	1/30	0.27
100	22	1/30	0.29

図 1

2. 標準現像時間テスト

ISO200 に見合う現像時間が標準現像時間になる。

2-1. テストの手順

(a) スポットメーターに ISO200 をセットしてグレーカードをゾーンⅧで 3 枚撮影。

(ゾーンⅧをプリントで見つけるための撮影)

(b) 3 枚のフィルムをそれぞれ 9 分、11 分、13 分で現像する。(D-76 1:1 20°C)

(c) スヌケのネガを引き伸ばし機に装填し、普段使用の印画紙に段階露光をとる。

(d) 現像、停止、定着をいつものやり方ですすめ、段階露光の真っ黒をみつける。

(e) 真っ黒の露光時間が標準露光時間となる。

(f) 標準露光時間で 3 枚のネガを露光しプリントする。

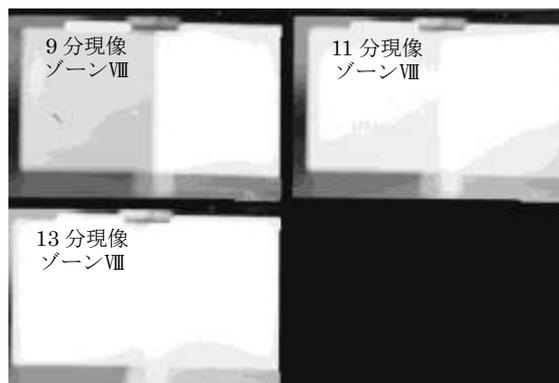
(g) 3 枚のプリントからごくわずかトーンが見えるプリントをみつけ、そのネガの現像時間が標準現像時間となる。

* 今回のテスト条件: オメガ D5-XL Color Head、150mm、イルフォード MGF B 1K 8x10、filter2、F22、標準露光時間 25 秒

2-2. プリントにしてゾーンⅧを見つける

(a) 密着プリント

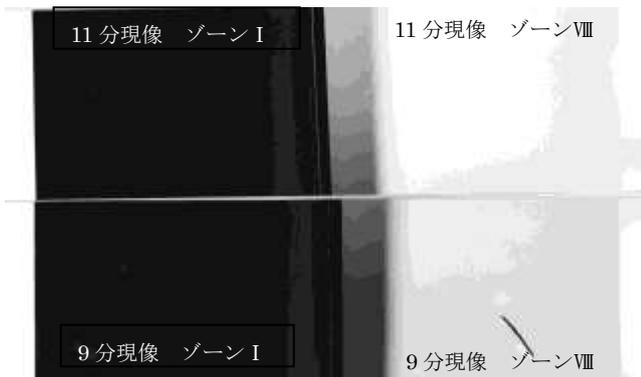
引き伸ばし機の光源、フィルター、絞り、露光時間は同じにして、印画紙の上に 3 枚のネガを載せ、ガラスで押さえて露光する。現像したプリントから 9 分ネガ、11 分ネガ、13 分ネガに濃度の違いが見える。



(2)引き伸ばしプリント

11分ネガと9分ネガを使って8x10サイズに拡大してゾーンⅧプリントを確認した。

- 11分のゾーンⅠネガとゾーンⅧネガを組み合わせ引き伸ばし機に装填し露光した。
- 9分のゾーンⅠネガとゾーンⅧネガを組み合わせ引き伸ばし機に装填し露光した。



■結果

標準現像時間は10分30秒から11分の間が適正と決定。



Information

【トピックス】

[ゾーンシステム・ワークショップ 2018]

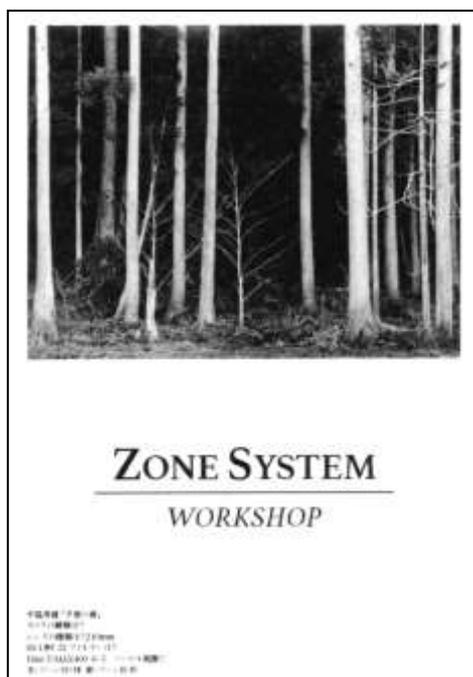
2018年8月より、アトリエ・シャテーヌにて、中島代表によるゾーンシステム・ワークショップが行われました。

- ・日程：2018年8月11日（土）～11/11（日）
- ・熱心な女性の方も受講されていたとのこと。銀塩写真への関心は、むしろ高まっているのかもしれない。

[ゾーンシステム・ワークショップ 2019]

2019年4月から、アトリエ・シャテーヌにて、中島代表によるゾーンシステム・ワークショップが始まります。

知り合いの方で興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ紹介してあげてください。



ZONE SYSTEM WORKSHOP 2019

フィルムを使う銀塩写真は、その時代のテクノロジーにそって発展し多くの人々に支持されてきました。銀という鉱物の化学変化による黒の美しさは、紙という物質と相まって情報としての段階からアート表現へと変わってきています。

アメリカの写真家アンセル・アダムスが考案した写真技法ゾーンシステムは、銀塩写真の特長を最も合理的な方法で進める技法で、自然界のある一瞬がもつ特別な価値を具現化するための柔軟性と緻密さを持つ技術といえます。

●講師 中島秀雄（ゾーンシステム研究会代表 写真家）

●ビギナー コース

普段使っている印画紙・フィルムを用いてゾーンスケールを作成し、ゾーンシステムの基本的な技術を学びます。

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 ゾーンシステムとは 4/14(日) | 5 撮影会 6/16(日) |
| 2 フィルム現像 4/28(日) | 6 プリント実習 6/30(日) |
| 3 標準現像時間テスト 5/12(日) | 7 講習会 7/14(日) |
| 4 ゾーンVIIIを見つける 5/26(日) | |

●受講料 50,000円（税込/フィルム・印画紙を含まず）

※定員5名、応募者数が定員人数に満たない場合はワークショップを中止することがあります。
※中級以上のカメラを対象としております。中級・大判カメラの貸出しも可能（自費に謝礼金あり）

<http://www.atelier-chataigne.org>

詳しくはホームページをご覧ください。

一般財団法人 戸部記念財団 アトリエ シャテーヌ

〒104-0042 東京都中央区人形2-5-9 人形サイト TEL 03-6262-8977 FAX 03-6262-8978
WEB <http://www.atelier-chataigne.org> E-mail info@atelier-chataigne.org
東京都目黒区日比谷 8丁目 丸の内線 八丁半駅下車 A2出口
東京都目黒区有楽町線 新富町駅下車 57出口 赤いぞりもじ徒歩約5分 @atelier_chataigne

[表紙の作品]

- ・作者：大野雅弘
- ・タイトル：Le stratum
- ・フィルム：ILFORD Delta100 Pro
- ・フォーマット：6x9
- ・レンズ：90mm
- ・絞り：f32
- ・シャッター：1秒
- ・キーゾーン：岩肌（中間）（V）
- ・シャドー：黒い岩肌（II～III）
- ・印画紙：ILFORD MGFB 1K